

「ダンゴムシから...何かが...」(ICT 機器の活用)

学校法人白石学園 辻ヶ丘幼稚園 (鹿児島県鹿児島市)[5 歳児]

<きっかけ> 栽培の経験から、園庭の畑に虫探しに行く子どもたちが増える。

(1) A 児が園庭の畑に虫探しに行く

ダンゴムシを見つけて手に乗せて見る。

「見て見て！ダンゴムシ...先生！ダンゴムシから何かが出てきた！」と驚く。

側にいた保育者が「なに？なに？なんだろうね？」と一緒に不思議がると、「ダンゴムシ博士の園長先生の所に聞いて来る！」と言い、走っていく。



(2) ダンゴムシから出てきたものを確かめる

A 児は「これはなんですか？」と言うと、「これはダンゴムシの卵かな？ん？動いているね！」と言う園長先生と一緒に拡大鏡を見ながら、手の上での発見を喜ぶ。

(3) ダンゴムシの赤ちゃんのことを伝える

A 児「ダンゴムシが僕の手の中で赤ちゃん生んだ！」と言い、友達や保育者に見せる。「ええー？赤ちゃん？」と不思議そうに保育者が見て、「すごいね！これ、どうしようか？」と言う。

A 児が「育ててみたい」と言い、B 児は「虫かご持ってこようか？」と言い周りの友達と一緒に考える。



(4) ダンゴムシを飼いたいと思う

素材置き場から透明のふた付きの弁当箱を持って来て、その中に入れようとする。そこで、保育者が「このまま入れると、ダンゴムシどうなるかな？」とつぶやくと、A 児「そうだ！さっきの畑の土を入れないと死んでしまう！」と言い、畑の土を入れる。

C 児「土だけだと死んじゃうよ！」と、以前見たことのある紙芝居の内容から、ダンゴムシは湿った所が好きだということや、枯れ葉を食べることに気付き、ダンゴムシの家を作る。

(5) クラスの友達に伝えたい

A 児は、保育者に「この話をみんなにしたい」と話した。そこで、A 児の話がクラスのみんなに伝わりやすいように、ダンゴムシを**書画カメラ**で映す。

D 児「どこ？小さくてわからない」E 児「小さいね！白いね」F 児「ダンゴムシと同じ形してる！」と、歓声を挙げながら驚く子どもたち。拡大して見たことで、ダンゴムシの卵らしきものも映る。親と同じで足があり、「動くことができる」と気付いた。

A 児は「これがお母さん。これが赤ちゃん。僕の手の上で生まれたんだよ」と、嬉しそうに友達に説明した。

(6) 新たな発見

飼育して観察を始めて3日後、いつものように**書画カメラ**でダンゴムシを映すと、G 児「ダンゴムシの赤ちゃんがいらない！」と言う。保育者が葉っぱを動かしていると、母親のダンゴムシの下から赤ちゃんが出てきた。

C 児「赤ちゃんおっぱい飲んでたんじゃない？」

D 児「私も思った！だって、おなかから出てきたよね」

E 児「ダンゴムシにもおっぱいあるのかな？」

A 児「いや、ダンゴムシは虫だから、おっぱいがあるはずがない！」

C 児、D 児、E 児「ある！」と、クラスの中でおっぱい論争が始まる。

おっぱいを調べてみることになる。



ICT 機器：デジタルテレビ・パソコン・校内 LAN・電子黒板などの情報通信技術を活用する機器

「教育の情報化に関する手引き 第8章 学校における ITC 環境整備」文部科学省作成参照

みどころ

園庭の畑で虫探しをする光景は、いろいろな園で見られると思います。ダンゴムシの赤ちゃんが、ダンゴムシと同じ形をしていることに気付いたり、お腹から赤ちゃんが出てきたことに興味をもち注目したりする姿には、拡大鏡や書画カメラという教材や教育機器が生きています。白くてとても小さな、卵なのか赤ちゃんなのか分からないようなものにも、小さな足があり動いていることが分かりました。赤ちゃんがどこから出てくるのか観察していたことが、「おっぱい論争」につながり、「科学する心」が育まれていくことが伝わってきます。